

国立国語研究所学術情報リポジトリ

総合シラバスの構想と研究経過

著者	中道 真木男
雑誌名	日本語学習のひろがり : 日本語総合シラバスの構築に向けて
ページ	75-79
発行年	1999-12
シリーズ	国立国語研究所研究発表会 ; 平成11年度
URL	http://doi.org/10.15084/00002930

発題① 総合シラバスの構想と研究経過

中道真木男（国立国語研究所日本語教育教材開発室）

ZVM07143@nifty.ne.jp

1. 「日本語総合シラバス」を構成する次元

1. 1. 次元II - 「単位方略」について

国立国語研究所 1994『日本語教育映像教材中級編関連教材「伝えあうことば」4 機能一覧表』
第II部 談話型一覧表より

談話例 『日本語教育映像教材中級編』セグメント23場面①

（タスク：仕切り壁の塗り方に注文をつけて変えさせる）Ⅲ 動能的談話◇注文

篠塚【評価の表明】001 ああ、なんだかうすぐらいわねえ。【説明の要求】002 ねえ、仕切り壁の色って、こんなんだった？
三浦【事情の説明】003 でも、一応グレーってことでしたから。
篠塚【評価の表明】004 だめよ、こんな陰気くさくちゃ。【行為の指示】005 この色ねえ、もう少し明るいのになりません？
職人A【困惑の表明】006 いまから？
職人B【事実の指摘】007 塗り直してると、明日までに乾きませんけど。
門田【意向への不同意】008 篠塚さん、そんな無理言わないで。
篠塚【評価の表明】009 だって、これじゃ、お客が入ってこないわよ。
職人B【提案の提示】010 じゃあ、あのテープ貼る手はどうですか。
門田【説明の要求】011 テープって言うത്？
職人B【事情の説明】012 この上から横に色違いのテープ貼ると、大分明るくなるんですけどね。013 こんなのを。
三浦【説明の要求】014 ふうん、でも、いくらぐらいかかります？
篠塚【受諾の要求】015 大丈夫よ。016 それくらい出せるわよ。017 やってもらおう。
門田【要求内容提示の要求】018 じゃあ、色は？
職人B【提案の提示】019 ええと、明るくってことなら、青か緑か、黄色ぐらいですか。
職人A【提案の提示】020 ま、緑だろうな。021 こんな緑。
門田【行為の指示】022 じゃあ、それを急いでやってもらえますか。023 すいませんねえ。
職人B【行為の申し出】024 じゃ、店に電話してきます。
職人A【申し出の受諾】025 ああ、急いで持ってくるように言って。
職人B 026 はい。

「注文」談話の基本構造 （本資料のため修正を加えたもの）

働きかけ側（注文する）		受け側（注文を受ける）
（説明の要求	→	事情の説明）
行為の指示	→	
（意向の表明	←	意向表明の要求）
（意向の確認	←	意向確認の要求）
（事情の説明	←	説明の要求）
	→	要求への了解
（行為の指示	→	要求への了解）

単位方略一覧

1. 話し手の外に情報源や根拠のある確定的・客観的な情報の受け渡しに関するもの
1. 1. 情報内容に主な関心を置くもの 1.1.1. 情報の提供（相手にとって必要または有用な未知の情報を伝える） 1.1.2. 事実の指摘（相手にとって既知、または客観的な事実を述べ、考慮に入れるよう求める） 1.1.3. 事情の説明（行為や決定の背景・条件として考慮されるべきことがらへの言及） 1.1.4. 説明の要求（主な情報に対して背景・条件となることがらに関する情報の要求） 1.1.5. ※情報提供への注目表示（情報を提供されたことへの認識を示す）
1. 2. 情報の主観的な意味付けに重点を置くもの 1.2.1. 情報の叙述（相手にとって必ずしも必要でない情報に言及し理解や共感を期待する） 1.2.2. ※情報叙述への共感（相手が述べた内容に対する理解・共感の表明） 1.2.3. 冗談（ことばの形や内容のおもしろさを目的とする発言）

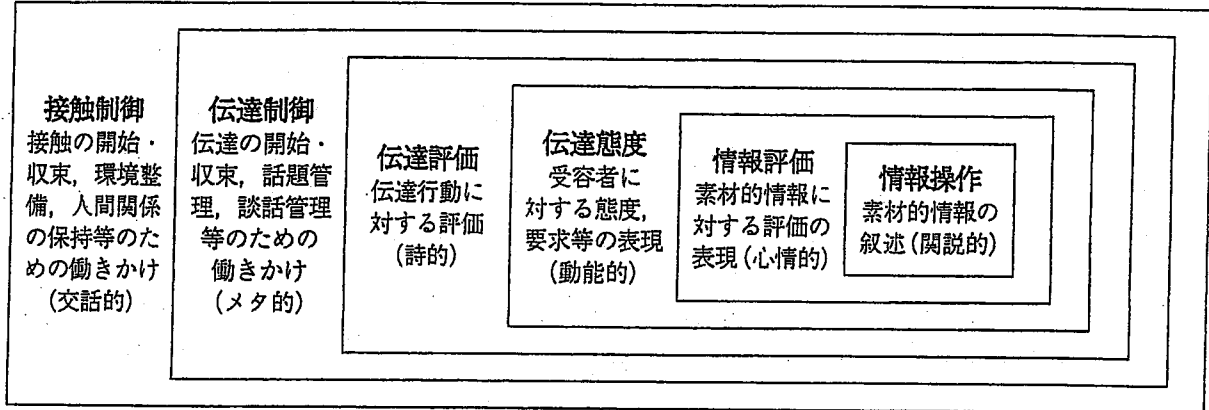
<p>1. 3. 情報を求めることに関するもの 1.3.1. 情報提供の要求 (自分にとって未知の情報を与えるよう求める) 1.3.2. 情報叙述の要求 (相手に関する必ずしも必要でない情報を求め、関心を示す) 1.3.3. ※情報要求への注目表示 (情報を要求されたことへの認識を示す) 1.3.4. ※情報要求への拒絶 (要求された情報を提供しないことを示す)</p> <p>1. 4. 自分から情報内容を示し、その当否を尋ねるもの 1.4.1. 情報確認の要求 (自分が提示する情報が正しいことを認めるよう求める) 1.4.2. ※情報の確認 (確認の要求に対する肯定の答え) 1.4.3. ※情報の訂正 (確認の要求に対する否定の答え)</p>
<p>2. 感想・意見など、論理的判断に基づく主観的内容の表明に関するもの</p> <p>2. 1. 見解を自分が表明することに関するもの 2.1.1. 感想の叙述 (事態に対して感じたことを述べ、理解や共感を求める) 2.1.2. 評価の表明 (事態の好ましさにについての評価・満足/不満などを述べる) 2.1.3. 困惑の表明 (事態について当惑・疑念などを感じていることを述べる) 2.1.4. 見解の表明 (問題になっていることがらに対処する方法などについて自分の判断を述べる)</p> <p>2. 2. 相手が表明する見解に関するもの 2.2.1. ※見解への同意 (相手が表明した認識や感想に同意し共感する) 2.2.2. ※見解への不同意 (相手が表明した見解に反対する) 2.2.3. ※見解への注目表示 (相手が表明した評価や意見を受信したことを示す) 2.2.4. ※見解表明の要求 (評価や意見を述べるよう求める) 2.2.5. ※見解確認の要求 (表明した見解が間違いないことを認めるよう求める) 2.2.6. ※見解の確認 (見解確認の要求に対する肯定の答え)</p>
<p>3. 感情など論理的判断を経ない主観的内容の表明に関するもの</p> <p>3. 1. 自分が感情を表明することに関するもの 3.1.1. 感謝の表明 (相手から受けた利益について感謝を述べる) 3.1.2. 陳謝の表明 (自己に責任のあることがらについて陳謝する) 3.1.3. 配慮の表明 (相手に対する配慮・好意の表明) 3.1.4. 祝意の表明 (相手の上に起こった喜ばしいことに祝いを述べる)</p> <p>3. 2. 相手が表明する感情に関するもの 3.2.1. ※感情への注目表示 (相手の感情表明を受信したことを示す)</p>
<p>4. 行為を行う意志および行わせる希望の表明に関するもの</p> <p>4. 1. 意志・希望を表明することに関するもの 4.1.1. 意志の表明 (自分が実現しようとする決意や心づもりを述べる) 4.1.2. 意向の表明 (他者に実現を求めようとする希望や選択内容、好みなどを述べる)</p> <p>4. 2. 相手が表明する意志・希望に関するもの 4.2.1. ※意向表明への注目表示 (相手が表明した意志・意向を受信したことを示す) 4.2.2. ※意向への了解 (相手が表明した意志・意向の内容への了承) 4.2.3. ※意向への不同意 (相手が表明した意志・意向の内容への不満の表明) 4.2.4. ※意向表明の要求 (相手の意志・意向を尋ねる) 4.2.5. ※意向確認の要求 (表明した意志・意向が間違いないことを認めるよう求める) 4.2.6. ※意向の確認 (意向確認の要求に対する肯定の答え)</p>
<p>5. 自ら行為を行う提案に関するもの</p> <p>5. 1. 相手の利益になる行為に関するもの 5.1.1. 行為の申し出 (相手の利益になる行為をすることを申し出る) 5.1.2. ※申し出の受諾 (自分の利益になる行為をする申し出を受け入れる) 5.1.3. ※申し出の拒絶 (行為の申し出を断る)</p> <p>5. 2. 自分の利益になる行為に関するもの 5.2.1. 許可の要求 (自分の利益になる行為をすることの了解を求める) 5.2.2. ※許可要求への了承 (相手が行為をすることを了承する)</p>
<p>6. 行為・行動を他者に求めることに関するもの</p> <p>6. 1. 行為を要求することに関するもの 6.1.1. 行為の指示 (なんらかの権限・根拠をもって行為を要求する) 6.1.2. 行為の依頼 (依頼する内容を示し、相手の反応を待つ) 6.1.3. 行為の勧め (相手の利益になる行為をするよう勧める) 6.1.4. 提案の提示 (方針などの内容を提案し、相手の反応を待つ) 6.1.5. 勧誘 (自分とともに行為をするよう勧める)</p> <p>6. 2. 相手が要求する行為に関するもの 6.2.1. ※要求への注目表示 (相手の行為要求を受信したことを示す) 6.2.2. ※要求への了解 (相手からの行為要求を承諾する) 6.2.3. ※要求への拒絶 (相手からの行為要求を断る) 6.2.4. ※要求内容提示の要求 (行為要求の内容を明らかにするよう求める) 6.2.5. ※要求内容確認の要求 (行為要求の内容を確認するよう求める) 6.2.6. ※要求内容の確認 (行為要求の内容確認の要求に対する肯定の答え)</p> <p>6. 3. 行為の要求に対する相手の反応に関するもの 6.3.1. 受諾の要求 (行為の要求・申し出を受け入れるよう求める) 6.3.2. 行為要求の撤回 (自分が先に行った行為要求をあきらめ撤回する)</p>
<p>7. その場で現に行われている行為に関するもの</p> <p>7. 1. 自分が行う行為に関するもの 7.1.1. 行為の合図 (行為に伴って発することばやあいさつ)</p> <p>7. 2. 相手が行う行為に関するもの 7.2.1. 行為への注目表示 (相手が行う行為を認識したことを示す) 7.2.2. 行為のうながし (その場で行うことが当然である行為をするよう相手に求める) 7.2.3. 行為の制止 (相手がしようとする行為をしないよう求める)</p>
<p>8. 談話の運用に関するもの</p> <p>8. 1. 接触自体の開始・終了に関するもの 8.1.1. 接触の開始 (コミュニケーションを開始する) 8.1.2. 接触の終了 (コミュニケーションを終わらせる) 8.1.3. 接触の再開 (先に中断したコミュニケーションを再び開始する) 8.1.4. 接触の中断 (後に再開する意志をもってコミュニケーションを中断する) 8.1.5. ※接触開始の受け入れ (相手の働きかけに応じてコミュニケーションを開始する) 8.1.6. ※接触終了の受け入れ (相手の働きかけに応じてコミュニケーションを終了する)</p> <p>8. 2. 接触の途中での話題の転換等に関するもの 8.2.1. 話題の開始 (話題を転換して新たな話題に入る、または談話の本題に入る) 8.2.2. 話題の収束 (そこまでの話の結論を出す、またはその話題についての話を終了させる) 8.2.3. 話題の保持 (話題を相手に渡さない、または話題を継続する意志表示のための発話) 8.2.4. ※話題開始の受け入れ (相手の働きかけに応じて新たな話題に入る) 8.2.5. ※話題収束の受け入れ (相手の働きかけに応じて話題を収束させる)</p> <p>8. 3. 接触を通じての決着内容に関するもの 8.3.1. 結論の確認 (その接触の中で決着した内容を再度確認する) 8.3.2. ※結論確認への同意 (確認された決着内容に異議がないことを表明する) 8.3.3. ※結論確認の要求 (その接触の中で決着した内容を再度認めるよう求める)</p>

談話意味の構造（タクティクス種別分類として）[未公開試案]

cf. Jakobson, R. 1960 Linguistics and Poetics (Style in Language, Sebeok, T.A. ed., M.I.T. Press)

[川本茂雄他訳『一般言語学』（1973 みすず書房）]

※談話の各部分は、これらの各層にわたって価値を持ちうる



1. 2. 次元I - 「用法」について

用法分類例

国立国語研究所 1991『日本語教育指導参考書 19 副詞の意味と用法』第四部 副詞の用法分類—基準と実例—より

■部分は本資料で付加

きつと [注] アクセントが「き' っ」となる用法はここでは扱わない。		
1. 判断に関する確信を表す用法。 [注] 話しことば的な言い方。	1. 1. 推量を表す「だろう／でしょう」「と思う」等の文末形式と呼応する用法。○このお天気だと、週末もきつと雨でしょうね。○あいつ、今はすましているけれど、子供の頃はきつと腕白だったんだろうな。○今ごろは私の手紙を見て、彼はきつと腹を立てていると思う。○しばらく会っていないけれど、あいつのことだから、きつと元気でやっているにちがいない。○この問題はちょっと難しいけれど、彼ならきつとわかるはずだ。	<div>一方的伝達の際の判断態度を表す</div> <div>終助詞の付加や倒置により、情報評価・伝達態度などを併用</div>
	1. 2. 判断・断定を表す文末形式と呼応する用法。○大したことはないから、きつとすぐ治るさ。○この曲はいいねえ。きつとヒットするよ。○きつとおこられると思っていたら、父は黙って許してくれた。○北海道はきつとすごいきれいだよ。	
	1. 3. 応答詞・間投詞的な用法。○「明日になればすこしはいいことがあるさ」「うん、きつとね」○「今ごろ沖縄は真夏のように暑いでしょうね」「ええ、きつと」	
2. 意志や主張が強固であることを強調する用法。 [注] 話しことば的。	○もう少し晴れていたら、遠くの島もよく見えただしょうね、きつと。○道路が混んでいるんでしょう。もうすぐ来ますよ、きつと。	<div>相手の示す情報に対する判断態度を表す</div> <div>主観的評価を伴う判断を表す</div>
	2. 1. 話し手の意志に関する用法。○「おみやげ、忘れないでね」「うん、きつと買ってくるから、楽しみに待っていて」○この前の試合では負けちゃったけれど、こんどこそはきつと勝つからね。○きつと彼女のハートを射止めてみせるぞ。	<div>意向の実現への意志の強さを表す</div>
	2. 1. 1. 「きつとだ」などの形の用法。○この次こそあいつを殺してやる。きつとだ。	
	2. 2. 命令・依頼に関する用法。○夏休みには、きつと遊びにきてくださいね。○門限は10時だから、それまでにきつと帰ってくるんだよ。○★帰ってきたら、きつと勉強しなさい。	<div>相手に行為を求める態度の強さを表す</div>
	2. 2. 1. 「きつとだ」などの形の用法。○今日は僕の誕生日なんだから、おいしいご馳走をたくさん作ってよね。きつとだぜ。○きつと来てね。きつとだよ。	
	2. 3. 聞き手の意志を確認する用法。○来月にはきつと返すんだな。○これはお前のカバンにきつと間違いないな。[注] やや古風な言い方。	<div>情報に関する相手の確信の強さを確認する</div>
3. ある条件のもとで必ず起ることを表す用法。	2. 3. 1. 「きつとだ」などの形の用法。○君がやったんじゃないんだね。きつとだね。	
	2. 4. 応答詞的な用法。○「今度の日曜日は、野球を見に連れてってよね」「あ、あ、きつとな」	<div>相手の問いかけに際して確信の強さを表す</div>
	○彼女は雨女だから、一緒に行くと、きつと雨が降るよ。○今は下手でも、大丈夫、練習すればきつとうまくなるから。○彼女に任せるときつとミスが出る。	<div>素材内容を表す</div>
	3. 1. 「の／んだから」などと呼応する用法。○君は何を作ってやってもきつとまずいって言うんだから。○もう電話番号はいやよ。わたしのときはきつと変な電話がかかるんだもん。 [注] くだけた文体で用い、そのことに対する軽い嫌悪を表す。	

1. 3. 次元Ⅲ - 「ジャンル」について

cf. 申請中の科研費調書より（下線は本資料で付加）

1. 出現位相に関する情報の整備 たとえば、判断態度を表す点で共通するト思ウ・ト思ワレル・カモシレナイの違いが「情報内容に対する確信の度合いの差である」といった情報を与えられたとしても、学習者にとって、その時書こうとしている文章あるいは話そうとしている場面でそれらを使ってよいのかどうかが具体的に示されなければ、類義表現の適切な使い分けは困難である。ト思ワレルは論文等の客観的論述の文章や研究発表等の非常に改まった話しことばで用いられ、ト思ウ・カモシレナイは、書きことばではやや親しい調子の文章、話しことばになると、かなりくだけた談話にまで広く出現できる。言語形式が出現する位相、および、その反映として言語形式が持つ文体的な価値に関するこのような情報は、実際に日本語を使用する学習者にとって不可欠なものでありながら、従来十分に記述がなされていない。

ジャンル（談話種別）あるいは社会行動の分類原理

チャンネル・物理的状況 構成要素・構造等の特性
参加者間の関係・社会的状況 機能あるいは作品の用途

※複数の軸による分類のマトリクスになる → 学習上の有用性を考慮した分類が必要

「モザイク」か「島」か

（モザイク観）ありうるすべての談話を分類するジャンル一覧表を用意することができる
（島観）言語使用の混沌の中に、時折、明瞭に見分けられるジャンルが浮かび上がる

2. 学習者の多様化と学習内容 「日本語総合シラバス」はなんのために作るのか

別冊資料『研究課題「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」について
（平成11年12月20日版）』より

学習者の多様化—その内容

- ① 学習目的、すなわち、日本語学習が対処しようとするニーズが多様化している側面
- ② 従来に比べてより多様な背景をもつ人々にまで日本語学習者の範囲が拡大している側面
- ③ より効果的な学習のため、学習者の個別的特性に目を向けることが求められている側面

「日本語教育システム」には限界がある

教育機関 → 個々の学習者でなく学習者のあるカテゴリーを対象とする
準備された教育内容を一定期間に提供する
形式化された資格を要求する
固定的な基準によって評価する
学習に成功した事実が社会的に価値を持つ

cf. v s ボランティアクラス 独習

学習の機会（学習はどこでも起こる）

他者管理下の学習
自己管理下の学習
無管理下の学習

意図的学習
非意図的学習

教室内の学習
教室外の学習

練習
実際使用

非日本語母語話者に対する日本語学習支援

定住者に対する	「第二言語教育としての日本語教育」
外国人である継承者に対する	「継承語教育としての日本語教育」
外国人として日本人と接触する者に対する	「外国語教育としての日本語教育」
外国人として日本人と接触しないものに対する	「外国語教育としての日本語教育」

日本語学習支援は「言語生活者」に対する支援

言語生活を含む生活者としてのニーズがある
それらの切実さには程度がある
支援の必要性の強さはさまざまである
必要な支援の内容もさまざまである
だれが支援するか（するべきか、できるか）

→ 言語問題の解決としての日本語学習の内容はどうあるべきか

「日本語学習の内容はどれとどれであるべきだ」と言えるようにしたい

日本人も変わる（変わらざるを得ない、変わるべきである）

異文化を背景とする人々と「共生」するために → 「国際化」
よりよい日本社会と自分を得るために → 自己の意識化 社会適応 自己実現

3. 研究の取りまとめに向けて

成果の内容（現段階での見通し）

1. 「日本語総合シラバス」本体

- ① 学習項目一覧表 : 以下の3種の言語的・非言語的単位のリスト
Ⅰ. 言語体系項目一覧表 Ⅱ. 単位方略一覧表 Ⅲ. 談話種別一覧表
② 学習内容解説 : 上記①のそれぞれについて、以下の3段階にわたる記述
a 各単位間の弁別基準、および、条件による選択基準
b 各単位の実現形態とその価値の記述、および、選択基準
c 各単位実現の技能に関する記述

2. 「教材開発指針」

- ③ 学習者条件記述の枠組み
④ 学習手段選択のための指針

3. 解説資料 上記①～④のそれぞれに付随する使用法等解説文書として添付、紹介資料として刊行も行う。

4. 論説資料 研究メンバーの執筆による論文をとりまとめ、刊行する。

5. 研究集会の開催 本課題に関連する内容の研究会、発表会等を随時開催する。

課題終了後の見通し 課題終了後も以下の各種活動の継続が必要と考えられる。独立行政法人国立国語研究所の業務として行うか否かは今後検討される。

- ① 「日本語総合シラバス」の具体化および更新
- ② 「教材開発指針」の具体化および更新
- ③ 複数の学習者についての個別シラバス例の作成
- ④ 複数の学習者種別のためのモデル的教材例の作成
- ⑤ 研究集会等による普及